

新生のための二つの条件

福島 勲

さて、パリサイ人の中にニコデモという人がいた。ユダヤ人の指導者であった。この人が、夜、イエスのもとに来て言った。『先生。私たちは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。神がともにおられるのでなければ、あなたがなされるこのようなしるしは、だれも行うことができません。』（ヨハネ3：1～2）

模範的な人・ニコデモ

ニコデモはどんな人物でしょうか。彼はユダヤ教徒の中でも正統派と呼ばれるパリサイ人です。

さらにユダヤ人の指導者であり、ユダヤ人最高議会の議員でもありました。社会的にも人々から尊敬され、性格も真面目で誠実な人のようです。

このようなニコデモこそは神の国に入るのに必要な資質を備えた人と考えられていたのではないのでしょうか。

ニコデモはイエスのなされた奇跡的なみわざを見て、イエスを神のもとから来られた教師として尊敬し、さらなる教えを賜りたいとして訪ねてきたようです。

このニコデモに対して、主イエスは開口一番、「新しく生まれなければ、神の国を見ることはできない」さらに「水と御霊によって生まれなければ、神の国に入ることができない」と語られました（3：3，5）。

ニコデモがこの世においてどんなに道徳的に立派でも、また敬虔な信仰を持っていても、それだけでは神の国に入れない。

あなたに欠けているのは教育ではない。御霊によって新しく生まれること、神の国に通用する新しいいのちが必要なのだと語られたのです。

私たちの多くは、ニコデモのように、教養と徳を身につけ、神に対する知識と信仰を深め、謙虚な生活を送ってゆけば、神の国に入れると考えているのではないのでしょうか。

しかし、主イエスは、「人間からは人間のいのちが生まれるだけです。けれども御霊は、天からの、全く新しいいのちを下さるのです。」(3:6/日常語訳)と語られました。

ニコデモは主イエスの御言葉を謙虚に受け止め、後には、アリマタヤのヨセフ議員と共に、十字架に上げられたイエスを信仰をもって仰ぎ見る者となりました(19:38~42)。

コルネリオはどうですか

使徒の働き10章を読むと、カイザリヤにローマ軍イタリヤ隊の百人隊長でコルネリオという人のことが記されています。

彼は敬虔な人で、全家族とともに神を恐れかしく、ユダヤの人々に多くの施しをなし、いつも神に祈りをしていた。御使いはこのコルネリオに現れ、彼の祈りと施しは神の前に立ち上って、覚えられている、と伝えています。

コルネリオのような人はそのまま、神の国に入れるのではないかと思われませんが、彼には「御霊による新生」がなかったようです。

ですから、神はコルネリオのために、ヨッパから使徒ペテロを遣わし、主イエスの救いの福音を伝えさせ、御霊による新生を彼と彼の家族に賜りました。

ペテロが主イエスについて「話し続けているとき、みことばに耳を傾けていたすべての人々に、聖霊がお下りになった。」(使徒10:44)。

新しく生まれるための条件

どうすれば人は「水と御霊によって新しく生まれ、神の国に入る者」となるのでしょうか。二つの条件が示されています。

第一の条件は何でしょう。主イエスは次のように語られました。「モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子もまた上げられなければなりません」(3:14)。

「モーセが荒野で蛇を上げたように」とは民数記にその出来事が記されています。「彼らはホル山から、エドムの地を迂回して、葦の海の道に旅立った。

しかし民は、途中でがまんができなくなり、民は神とモーセに逆らって言った。

『なぜ、あなたがたは私たちをエジプトから連れ上って、この荒野で死なせようとするのか。パンもなく、水もない。私たちはこのみじめな食物に飽き飽きした。』

そこで主は民の中に燃える蛇を送られたので、蛇は民にかみつきました、イスラエルの多くの人々が死んだ。

民はモーセのところに来て言った。『私たちは主とあなたを非難して罪を犯しました。どうか、蛇を私たちから取り去ってください、主に祈ってください。』モーセは民のために祈った。

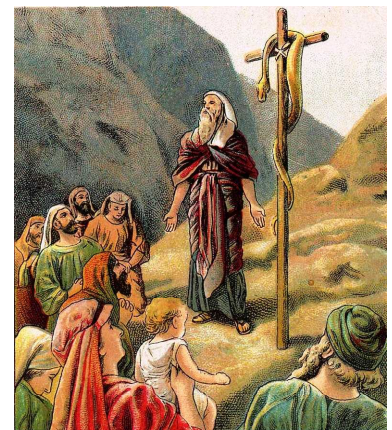
すると、主はモーセに仰せられた。『あなたは燃える蛇を作り、それを旗ざおの上につけよ。すべてかまれた者は、それを仰ぎ見れば、生きる。』

モーセは一つの青銅の蛇を作り、それを旗ざおの上につけた。もし蛇が人をかんでも、その者が青銅の蛇を仰ぎ見ると、生きた。」(民数記 21：4～9)

イスラエルの民がエジプトを出て、約束の地カナンに向かって荒野の旅をしていた時のこと。イスラエルの民は神とモーセに逆らい、不平をぶちまけたのです。神は罰として、毒蛇を彼らの中に送り、その結果、多くの者が死にました。

この苦しみの中からイスラエルの民は自分たちの罪を悔い、モーセにとりなしの祈りを乞いに来たのです。

モーセが祈ると、神はモーセに命じて、青銅の蛇を作り、それを旗ざおの上につけよ、と仰せられた。蛇に噛まれたイスラエルの民の中で、その青銅の蛇を仰ぎ見た者は、奇跡的にいやされた。



旗ざおに上げられた青銅の蛇

主イエスは、この出来事を引き合いに出して、御霊による新生がどのように起こるかを説明されました。

今日、私たちは、罪という毒蛇に噛まれ、永遠の死という刑罰に定められている。この青銅の蛇とは主イエスのひな型です。聖書では、青銅は審判を意味す

る。主イエスは罪が無く、罰せられるお方ではなかった。

しかし、主は私たちの身代わりとなり、私たちが受けるべき裁きをその身に負って下さった。「旗ざお」とは、イエスが上げられた十字架を示している。

救い主は罪を知らない方なのに、私たちのために罪とされた。これが新しく生まれるための第一条件である。

第二の条件は何でしょうか。

「それは、信じる者がみな、人の子にあって永遠のいのちを持つためです。」

(3 : 15)

蛇に噛まれたイスラエルの民のように、自分の罪を悔い、十字架に上げられたイエスが自分の罪を背負って身代わりとなって下さったことを信じることである。

私たちが、御霊によって新しく生まれるための第一条件は、二千年前にイエス・キリストにあって成し遂げられた。

今の私たちには第二条件だけが残されている。

十字架に上げられたイエスを「我が罪のためなり」と仰ぎ見る時、御霊は私たちのうちに、新しいいのち、永遠のいのちを無代価の賜物として与えて下さる。何と感謝なことでしょう。



身代わりとなられたイエスの十字架